誤用分析の基礎研究（1）

長友和彦・迫田久美子
（広島大学）

1．正用／誤用の判断基準について

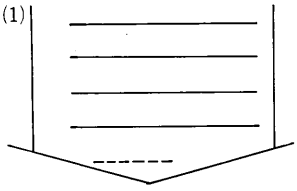
誤用分析をする場合に，まず直面する問題は，何を基準にして正用および誤用の判断を下すかということである。

言語が絶えず変化を重ねてきているという歴史的事実，あるいは，いわゆる「普遍文法」の記述も研究目標であって実際に記述されているものでもないという事実を考えただけでも，ある言語の用法に関して，それが正用であるか誤用であるかの判断を下す絶対的基準は存在しないことになり，我々がここで設定する基準も相対的なものであるということになる。[1)]

ここで我々は基本的に二つの規範を使って正用／誤用の判断を下すことにしたい。一つは文文法（sentence grammar）という規範であり，もう一つは談話文法（discourse grammar）という規範である。文文法は文という単位における文法規則の体系をさし，談話文法は文という単位を越えた談話というコンテキストにおける言語学的規則の体系をさす。文文法と談話文法は，それぞれ我々の言語能力そのものをさすとともに，その言語能力に関して言語学的に記述されたものもさすというふうにここでは考える。従って，我々は正用/誤用の判断に際して母語話者としての直観的能力を使うと同時に，これまでの文文法と談話文法に関する言語学的研究成果をふまえて判断を下すことになる。

談話が複数の文によって成立しているという意味において，当然のことながら，談話文法と文文法は密接に関連し相互に補完し合う関係にある。この関係を図示すると次のようになる。

(1)



S：文（Sentence）
D：談話（Discourse）

D

従って，正用／誤用の判断に際しては，我々の直観に頼る一方で，常に双方の規範に照らし合わせて注意深く判断を下す必要がある。書かれた談話（written discourse）としての作文の一部を例にとって，この点に関する説明を少し加えよう。これは，外国人留学生が書いた作文の中に実際にあった例である。

(2) 日本でくつを家の中にだめから私はびっくりしました。

この文の前に次のような文章がある。（これは，誤用を訂正した後の文章である。）

(3) 家もバングラデシュと日本はちがいます。ほとんどのバングラデシュの家は広いです。建物はだいたいレンガやセメントで建てます。そして，わたしたちは靴をはいたまま家の中入ります。

文文法と談話文法の規範を使い，我々は次のように(2)の文の正用/誤用の判断を下す。

ア．「家の中に」の後に動詞が欠落している。（←文文法）

イ．その動詞は，例えば，「持って入る」ではなく，「はく」（または「入る」）であり，その形は「はくのは」がいい。（←談話文法）

ウ．その場合，「家の中に」の「に」は「で」に変えなくてはならない。（←文文法）

エ．もし，「入る」を使って「入るのは」とした場合は，それに付随して「くつを」の後に，例えば「はいたまま」を挿入する。（←談話文法）

オ．「だめ」の後に「だ」の助動詞が欠落している。（←文文法）

カ．その「だ」の形は「だ」「だった」「です」「でした」のどれでもよい。（←談話文法）

キ．「日本で」の後に「は」を入れる。（←談話文法）

ク．「家の中ではくのは」とした場合，語順として，「家の中で」と「くつを」を入れ替えて，「家の中でくつをはくのは」とした方がより望ましい。（←文文法）

このように文文法と談話文法はそれぞれ密接に関連し補完し合っていることがよく分かる。

文文法によって誤用と判断されるものは，談話文法の上でも誤用であることは自明のことであるが，次に示すように，文文法上正しいと判断できるものでも，談話文法上誤用と判断されるものもある。

(4) ぼんおどりもやりました。

これも実際の例であるが，(4)の文は文文法上何ら誤用と判断されるものはない。しかし，コンテキストに目をやると，この文の前には，新しいパラグラフの冒頭文として「鹿島市で森永家に泊まりました。」とい

う文しかなく，「ぼんおどり」の後を「も」にすべき理由は何もないところから，「を」が正しい用法だということが分かる。

誤用には上述したような誤用だけでなく，音声・音韻論上の誤用や表記上の誤用があるが，ここでは対象を文文法・談話文法上の誤用に制限して論述する。

2．誤用分析の目的について

誤用分析の目的は，大きく分けると，まず二つに分けられる。一つは，(i)誤用分析を通して，誤用を生み出す原因となる学習者の言語習得過程を明らかにしようとするものであり，もう一つは，(ii)誤用分析を通して，その対象となる言語の内部構造，つまり，文法の体系的規則を明らかにしようとするものである。つまり，誤用分析は一方で言語学習者の内部を明らかにしようとし，もう一方で言語そのものの内部を明らかにしようとするのである。

誤用分析においては，質的な意味でも量的な意味でも，英語の誤用分析が先行しているといえるが，英語の誤用分析は前者，つまり，誤用分析を通した言語学習者の習得過程の理論的解明をその主な目的としてきたと言える。一般的に誤用分析を始めたとされているCorder の "The Significance of Learner's Error (1967)" が世に出てから二十年が経過しており，数多くの研究がなされてきたが，[2]それらの研究が明らかにしようとしてきたことは，言語学習過程において系統的な誤用を生み出す，母語でも目標言語でもない過渡的で中間的な言語体系，つまり，中間言語(Interlanguage)[3]の解明であった。もちろん，中間言語の存在は仮説であって，その全体像は未だ不明なのであるが，この考え方は誤用分析の大きな引金になり，事実，多くの研究成果として実を結んできた。[3]そういう意味で中間言語と誤用分析とは不可分の関係にあり，中間言語という考え方を抜きにして誤用分析と第二言語の習得過程は語れないほどこの言葉は定着している。

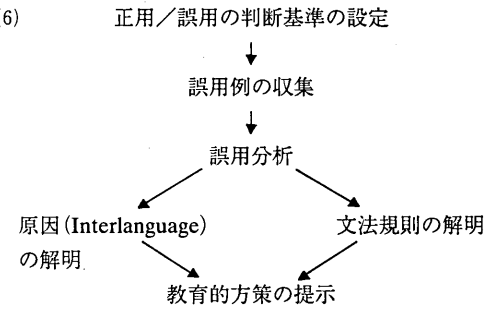
一方，これまでの日本語の誤用分析において，誤用の原因をこの中間言語に求め，それを解明しようという本格的な研究は，我々の知る限り皆無である。[5]これまでの日本語の誤用分析は，上述した後者の目的，つまり，日本語文法の体系的規則の解明をその主な目的としてきた。例えば，次のような記述はその典型的なものである。

(5) 「出来る学生がたまにする誤りの中に実は非常にいいヒントがかくされているのである。このような誤用例による研究は新しい文法の規則の発見につながる。そしてそのような規則は誤用例を扱っていなければ発見が困難である。ここにこそ誤用例による研究の価値があるのではないだろうか。」(p. 17)
吉川武時「誤用例による研究の意義と方法」日本語教育34号　1978

誤用分析の基本的な目的は，上述したような二つの目的に分けられるが，誤用分析に何らかの教育的意義を見いだそうとする場合，さらに第三の目的が必然的に出てくる。それは，誤用分析によって明らかになったことを教育の場で生かすための方策（例えば，新しい教育方法や教材）を提示するということである。特に，言語教育に携わる者として誤用分析と取り組む場合，この第三の目的を果たすことが当然望まれる。

これまで述べてきたことを大まかにまとめると，誤用分析はおよそ次のような過程を経ることによってその目的を果たすことが出来ると言える。

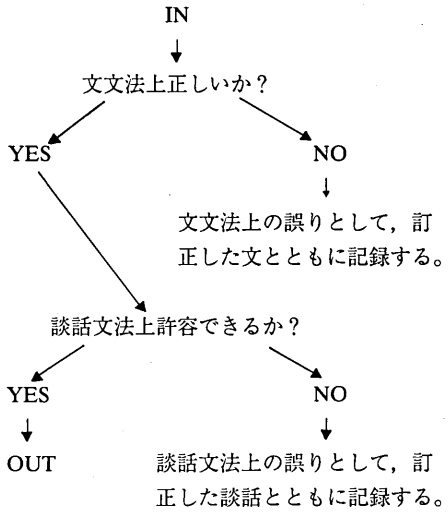
(6)



3．誤用分析の方法について

まず，(7)に示すような誤用認知過程を設定し，我々二人が共同して誤用の発見に努めた。この認知過程に関しては，Corder (1971) の誤用認知過程のモデルを参考にした。[6]次に，双方が誤用と認定した誤用例一つ一つについてカードを作り，分類と整理を行った。

(7)



この誤用分析の過程で，我々は次のような共同作業の重要さを認識させられた。

ア．二人以上の母語話者の直観的能力と言語学的知識

に照らし合わせて誤用の判断が出来るので，より客観的な誤用の判断が可能になり，何よりも誤用の見落としを防げる。

イ．誤用分析には時間のかかる量的作業が必要となるが，共同作業によりそれが可能になる。

4．誤用分析の対象について

広島大学外国人留学生日本語研修コース（初心者を対象にした六ケ月間の日本語集中コース）で1987年4月から日本語（初級）を学んできた留学生が，9月に提出した(i)修了式の際のスピーチ用に書いた作文と，(ii)夏休みの宿題として課した日記のうち，ここでは，我々が担任として教えた一クラス8人分の作文と日記を誤用分析の対象とした。(延べ授業時間数は約400時間である。)

誤用分析に作文を使う場合，次のような利点と欠点があると我々は考える。

利点：

ア．文の単位と談話のコンテキストがはっきりしており，比較的簡単に文単位の誤用および談話のコンテキストにおける誤用を発見することが出来る。

イ．作文の場合，たいてい，書く過程で作者が推敲するので，誤用はいわゆるミステイクよりもエラーの場合が圧倒的に多いと考えられる。[7]

ウ．一つ一つの文に関する作者の意図（内省）を聞きやすい。

エ．いわゆる表記上の誤用が分かる。

欠点：

ア．録音または録画した自然な会話の場合と違い，コミュニケーションという観点からコミュニケーション・ストラトジー等の観察が出来ない。

イ．ここでデータとして使う作文の場合，宿題として課した作文なので，日本語の教科書や辞書類に頼ったり，日本人に翻訳してもらったりする可能性があるので，必ずしも，学習者の習得したありのままの言語能力がその作文に反映されているとは限らない。（もちろん，明らかにどこかから写してきたもの，あるいは，日本人に手伝ってもらったと判断できるものは，誤用分析の対象から外した。）

ウ．音声あるいは音韻論上の誤用が十分に把握できない。

5．分析結果とその検討

我々は今回，誤用分析を前章でも述べた二つの基本的な規範に従って行った。S－Gと記してある文文法によるものと，D－Gと記してある談話文法によるものである。それに加えて，文文法上あるいは談話文法上でも誤用とは認められないが，もっと日本語らしい表現があるという観点から誤用とみなされ得る文を，表現の誤用として分類し，さらに表記の誤用を加えて，以上四つを大まかな分類項目とした。

分類別誤用例総数

	民籍	種別	文総数	S－G	D－G	表記	表現	誤用総数
Hc	ウルグアイ	COMPOSITION	34	11	8	7	2	28
		DIARY	17	6	3	4	1	14
Kh	バングラデッシュ	COMPOSITION	28	16	15	18	1	50
		DIARY	14	2	4	1	0	7
Lr	マレーシア	COMPOSITION	65	24	20	12	1	57
		DIARY	17	3	5	4	0	12
Ma	マレーシア	COMPOSITION 1	50	25	18	5	1	49
		COMPOSITION 2	25	24	25	6	1	56
		DIARY	56	14	14	12	0	40
So	フィリピン	DIARY	24	11	11	16	0	38
An	イラン	COMPOSITION	20	18	7	8	0	33
		DIARY	11	5	3	5	1	14
Ra	マレーシア	COMPOSITION	27	22	20	14	0	56
		DIARY	23	4	2	12	0	18
Tr	インドネシア	COMPOSITION	15	12	13	4	0	29
		DIARY	13	7	11	5	0	23
		Total	439	204	179	133	8	524

今回は，表記と表現の誤用例の検討は次の機会に譲り，文文法と談話文法の誤用例についてのみその分析結果の検討を行う。

上記の表は，対象となった留学生の国籍を含め，誤用分析の資料の種別と各々についての分類別誤用数を示したものである。(左端のローマ字は各留学生の略称。)

まず，各留学生とも文総数に応じて，誤用数も多くなっていることが目を引く。このことは，それぞれの留学生の能力や日本語能力の到達度に関わりなく，初級レベルではかなりの数の誤用が確実に表出することを示唆している。(全体では文総数439に対して誤用総数524。) 次に，これはここで最も注目すべきことであるが，文文法の誤用数（総数204）と談話文法の誤用数（総数179）が大体同じ割合で表われているという点である。このことは，文文法と談話文法とは密接に関連し相互に補完し合う関係にあるという最初に述べた文文法と談話文法との理論的関連性を裏付ける結果となっている。

次の表は，S－GとD－Gに関する細かい分類における誤用数の表である。左端が分類項目で，それぞれの留学生毎にCMとあるのは作文，DRとあるのは日記文を意味し，各々にあらわれた誤用数を記してある。各々の表からその特徴的な部分をいくつか取り上げると，まず，S－Gの分類表では，

ア．名詞，動詞の誤選択が多い。(それぞれ21と12) 付加や脱落の誤用も含めるとかなりの誤用数となる。(全部で56)

イ．数の上で最も割合の高いのが格助詞に関わる誤用である。(全部で73) どの留学生にも誤用があらわれている。

ウ．述部誤用 (10)，形容詞活用（8）・動詞活用（7）の誤用も目立っている。

文文法（S－G）誤用

			He CM	He DR	Kh CM	Kh DR	Lr CM	Lr DR	Ma CM	Ma CM1	Ma CM2	So ZDR	An DR	An CM	An DR	Ra CM	Ra DR	Ir CM	Ir DR	Total	
1 -1)	普通名詞	誤選択	4	-	2	-	3	-	4	2	1	-	3	-	-	1	1	-		21	31
-2)		脱　落	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	2	-	2	-	-	-		7	
-3)		付　加	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-		3	
2 -1)	代名詞	誤選択	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		1	
-2)		付　加	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-		2	
3	形式名詞	脱　落	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-		2	
4	数量詞誤用		-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	3	-	-	-		5	
5	接尾語誤用		-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	4		6	
6 -1)	動詞	誤選択	1	-	-	-	2	1	-	4	1	-	1	-	1	-	1	-		12	25
-2)		脱　落	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-		3	
-3)		活　用	-	-	1	-	-	-	-	3	1	-	-	-	2	-	-	-		7	
-4)		テンス・アスペクト	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-		3	
7 -1)	連体詞	誤選択	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		1	
-2)		脱　落	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-		1	
8 -1)	副詞	誤選択	-	-	1	-	-	-	1	2	-	-	1	-	-	-	-	-		5	
-2)		付　加	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-		2	
9 -1)	形容詞	誤選択	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-		1	
-2)		活　用	-	-	2	-	2	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-		8	*
10-1)	形容動詞	誤選択	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		2	
-2)		活　用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-		2	
11-1)	助動詞	誤選択	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-		2	
-2)		脱　落	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		1	
-3)		付　加	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-		2	
-4)		活　用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-		1	
-5)		テンス	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-		2	
12-1)	格助詞	誤選択	2	2	4	1	4	-	2	3	3	2	7	-	3	1	3	1		38	73
-2)		脱　落	2	3	1	1	4	-	4	-	2	2	-	2	-	2	-	2		25	
-3)		付　加	-	-	1	-	-	-	-	1	1	-	2	1	4	-	-	-		10	
13	係助詞	誤選択	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-		2	
14	接続助詞	付　加	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-		2	
15	語　順		-	-	-	-	1	-	3	1	1	-	-	-	-	-	1	-		7	
16	連体修飾句（節）		-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-		1	
17	尊敬語誤用		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-		1	
18	述部誤用		-	-	-	-	2	-	1	2	-	2	1	-	-	-	2	-		10	*
19	主部脱落		-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-		3	
20	未完文		-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	1	-		3	
	Total		11	6	16	2	24	3	25	24	14	11	18	5	22	4	12	7		204	

文文法（S－G）誤用例

1 -1) 広島大学の先生と外国生は　これからしぬまで　わたしの友だちです。
（　He-SP-26）
-2) 心で「雨さん、降ってください。・・・・」と、祈りました。
（　Lr-SP-44）
-3) また天気は暑くて、あせが　タラタラ　でました。
（　Lr-SP-23）
2 -1) 広島大学の先生と外国人留学生は　今からしぬまでわたしの友だちです。
（　He-SP-26）
-2) わたしは　しどうきょうかんのかわべ先生をはじめたいへんおせわになりありがとうございました。（　Ma-SP1-2）
3 しかし　まだせんもんのしゅくだいをするは　はじめていません。
（　An-DR-10）
4 マレーシアの面積は　３３０．４３４キロじじょうです。
（　Ma-SP1-20）
5 五時ぐらい　広島へ帰りました。（　He-DR-17）
6 -1) しかし　やっとわたしは知っています。（　Ma-SP11-16）
-2) きょうは　はじめてあさねぼう　しまいました。（　Ma-DR-38）
-3) わたしは　日本へ来たからはじめて　はしを　使いましたけれど、とても面倒でした。（　Kh-SP-14）
-4) きょうはじめて　一日じゅう　アパートを　出ました。
7 指をいかにかまれました。その事は　初めてでした。（Lr-SP-60）
8 -1) でもバングラデッシュと　日本は　たくさんちがいます。（Kh-SP-7）
-2) 熊本城は　本当にすごく大きかったです。（Lr-SP-14）
9 -1) 中国語とタミール語も使っています。しかし小さなパーセントです。（Ma-SP-49）
-2) きょうはたいへんあついでした。（　An-DR-7）
10-1) 長崎はとてもおもしろい町で、歴史の所がたくさんありました。（Lr-SP-21）
-2) わたしはいろいろものを見ました。（ So-DR-22）
11-1) その時はわたしは自分でいつも「どうして日本へ来ました。」とたずねました。（ Ma-SP11-9）
-2) 日本ではくつを家の中ではくのはだめから、私はびっくりしました。（Kh-SP-19
11-3) 九月一日まで先生がたに会えないから　かなしいだ。（Lr-DR-3）
-4) たのしかったでした。（So-DR-12）
12-1) 広島大学に　わたしはたくさんのことを　ならいました。（ He-SP-27）
-2) 松山は　ぼくこんどのけんきゅうばしょだ。（Ra-DR-18）
-3) 夕方におかあさんはてんぷらを作りました。（Ma-DR-30）
13 発音と文法と字も　全部　ちがいます。（Kh-SP-10）
14 いろいろなことを見てと聞いています。（Ma-SP11-4）
15 先生はみんな　ばかり日本人です。（Ma-SP1-11）
16 いちばん雨ふりの月は十月から三月までです。
17 えいがのひょうだいは　ビバリーヒルがあります。（So-DR-19）
18 中国語とタミール語も使っています。　しかし　小さなパーセントです。（Ma-SP1-49）
19 ほかには食べたり飲んだりする時のしゅうかん　（Ma-SP11-11）

談話文法（D－G）誤用

			He CM	He DR	Kh CM	Kh DR	Lr CM	Lr DR	Ma CM	Ma CM1	Ma CM2	So ZDR	An DR	An CM	An DR	Ra CM	Ra DR	Ir CM	Ir DR	Total	
1 -1)	普通名詞	誤選択	1	-	1	1	-	-	3	2	-	-	1	-	1	-	-	-		10	15
-2)		脱　落	-	-	-	-				2	-	-	-	-	1	-	-	-		3	
-3)		付　加	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-		2	
2 -1)	代名詞	誤選択	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		1	
-2)		脱　落	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-		1	
3	形式名詞	付　加	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-		1	
4	接尾語	脱　落	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-		1	
5 -1)	動詞	誤選択	-	-	-	-	2	-	2	2	2	5	1	-	2	-	1	2		19	27
-2)		活　用	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-		3	
-3)		テンス・アスペクト	-	-	-	1	-	-	-	-	2	-	-	1	1	-	-	-		5	
6	補助動詞	脱　落	-		-		1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-		3	
7	連体詞	誤選択	-	-	-		-		-	2	-	-	-	-	-	-	-	-		2	
8 -1)	副詞	誤選択	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		1	
-2)		脱　落	-	-	1	-	-	-	-			-	-	-	-	-	-	-		1	
-3)		付　加	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-		1	
9 -1)	形容詞	誤選択	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		1	
-2)		活　用	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		1	
-3)		テンス	-	-	-	-	1	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-		3	
10-1)	接続詞	誤選択	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-		3	
-2)		付　加	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-		1	
11-1)	助動詞	誤選択	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		2	20
-2)		脱　落	-	-	1	-	-	1	1	1	2	-	-	-	-	-	-	-		6	
-3)		テンス	1	-	1	-	1	-	-	3	1	-	-	1	1	-	-	3		12	
12-1)	格助詞	誤選択	-	-	-	-	6	-	1	1	2	2	-	-	-	-	1	-		13	15
-2)		脱　落	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		2	
13-1)	係助詞	誤選択	2	-	1		2	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2	-		8	27
-2)		脱　落	1	1	2	-	1	-	3	4	-	-	4	-	1	-	-	-		17	
-3)		付　加	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-		2	
14	接続助詞	誤選択	-	-	1	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-		3	
15	終助詞	付加	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-		4	
16-1)	述部	誤選択	-	-	2	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	1	1	1		8	
-2)		脱　落	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-		2	
17	主題	脱　落	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	2	-		6	
18	修飾語	脱　落	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-		1	
19	尊敬語誤用		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-		3	
20	文　順		-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		1	
21	文　脱　落		-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-		1	
22	文のレベル（丁寧・非丁寧）		-	1	1	1	2	3	-	-	1	-	-	-	-	1	4	5		19	*
23	文のスタイル（書きことば・話ことば）		-	1	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	3	-	-	-		6	
	Total		8	3	15	4	20	5	18	25	14	11	7	3	20	2	13	11		170	

談話文法(D -G)誤用例

1 -1) マレーシャ半島には十二の州があります。全部で十四国家です。（→州）（Ma-CM1-19）
-2) 祭と儀式のときにビールとアルコール類を飲みます。例えば、結婚式や中国人の新年です。（→新年の（祝いの）ときです。）（Ma-CM2-22）
-3) 中国人の宗教はたいていい仏教です。インド人はたいていヒンズー教です。しかし、中国人とインド人の一部はキリスト教の人です。（→キリスト教）（S-Gの誤選択で「キリスト教徒です」とも変換可能。）（Ma-CM1-43）
2 -1) 今日、私は三原へ行きました。広島駅から電車で行きました。あそこでやっさまつりに行きました。（→そこ）（Kh-DR-10）
-2) 私の国ではそんなことをしてはいけません。特に女性はです。（→女性はそうです）（Ma-CM2-14）
3 日本語は敬語が非常に発達しているが、これは日本人が上下関係を重視することによるものである。インドネシア人も大部分は同じようなことだ。（→同じようだ）（Ir-CM-10）
4 かわべ先生をはじめいろいろな先生にたいへんお世話になりありがとうございました。-------- 私は先生にたいへんお世話になりもう一度お礼を言いたいです。（→先生がた）（Ma-CM2-24）
5 -1) ---- 雨はやみました。おどりをしました。だんだんおどりかたをおぼえました。（→思い出しました）（Lr-CM-51）
-2) ---- だから、今日はマレーシャについて話せます。（→話します）（Ma-CM1-12）
-3) 今年の夏休み、私は九州へ行きました。泊まる所はユース・ホステルとホースト・ファミリーの家でした。（→泊まった）（Lr-CM-4）
6 中国語とタミール語も使って、しかし、パーセントは低いです。（→使っています）（Ma-CM1-49）
7 もし、毎日飲んでいたら、あの人はいい人ではないと思われます。（→その）（Ma-CM2-23）
8 -1) 広島大学で私はたくさんのことを習いました。もう、私は外国語の勉強の仕方を習いました。（→すでに）（He-CM-29）
-2) ところが、とても暑くて雨がふります。（→とても暑くてよく雨がふります）（Kh-CM-22）
-3) 毎日とても暑かったです。かわりに、私は映画館へ行きました。（→削除）（So-Dr-17）
9 -1) 良い友達とやさしい先生のおかげで問題はだんだんやさしくなりました。（→なくなりました）（Kh-CM-23）
-2) 私の国はあまり暑くありません。ところが、とても暑いと雨がふります。（→暑くて）（Kh-CM-22）
-3) たとえば、日本人は音をたてます。私はびっくりしました。------ しかし、やっと私は分かりました。音をたてるのはおいしかったからです。（→おいしい）（Ma-CM2-17）
10-1) 日本料理ではうどんはいちばんきらいです。だから、少し食べました。（→でも）（「だから、少ししか食べませんでした」も可能）（Ma-DR-12）
-2) 二十日に家を出て、九州へ行きたい。それから、少し支度をした。地図や黒いめがねを持って行く。（→削除）（Lr-DR-7）
11-1) ---- 日本人のみなさん、どうもありがとうございました。私は広島市が決して忘れられません。（→忘れられないでしょう）（He-CM-33）
-2) 日本では家の中で靴をはくのはだめから、私はびっくりしました。（→だめです／でした／だ／だったから）（Kh-CM-19）
-3) ここでは私の教養は豊かになると思います。---- 先生がた、外国人留学生のみなさん、日本人のみなさん、どうもありがとうございます。（→ました）（He-CM-32）
12-1) みこしをかつぐ時、本当に雨はすごく降りました。（→が）（Lr-CM-46）

-2) 夜九時出発して、次の朝五時半に着きました。（→九時に）（Lr-CM-6）
13-1) でも、私の国にはお刺身やおすしやラーメンやそばやお酒などがありません。（→は）（Kh-CM-13）
-2) 日本で家の中で靴をはくのはだめですから、私はびっくりしました。（→日本では）（Kh-CM-19）
-3) 日本語のミサはむずかしかったです。きょうもはじめて日本語のミサに来て、少しだけ分かりました。（→削除）（Ma-DR-45）
14 今日は修了式で私はとてもうれしいのに、私の日本語はまだ下手です。（→ですが／でも／しかし）（Ma-CM2-1）
15 毎日自分で朝食と夕食を作ったり、お茶とコーヒーを入れたりします。そのためになべやゆわかしや皿やさじやれいぞうこやテーブルなどを買わなければなりませんでしたね。（→削除）（Ra-CM-15）
16-1) 日本語研修コースの学生はいろいろな国から来ました。---- ちょっとマレーシャのじょうほうをしろうと思います。（→ご紹介をしよう）（Ma-CM1-12）
-2) しかし、日本は私の国とぜんぜんちがいます。---- ほかには、食べたり飲んだりするときのしゅうかん、たとえば、日本人は音をたてます。（→しゅうかんが違います）（Ma-CM2-11）
17 ほかには、食べたり飲んだりするときのしゅうかんが違います。例えば、音をたてます。（→日本人は音をたてます）（Ma-CM2-11）
18 国民の宗教はイスラム教です。（→多くの国民／国民の主な宗教）（Ma-CM1-37）
19 こちらにいらっしゃっている皆様は私のことをご存知ないから、自己紹介をしました。もし、私のことを知っている人が何回も聞かれたら---- （→ご存知の方）（Ra-CM-7）
20 きょう私は三原へ行きました。 ------- ------ ------ 夜新幹線で帰りました。三原へ友達といっしょに行きました。（→きょう私は三原へ行きました。友達といっしょに行きました。------ ------ ------
21 そのころから私は日本語のひらがなとかたかなと漢字と文法を習いました。だから、今日はわたしはとてもうれしいです。（→今日は修了式です。だから、今日はわたしはとてもうれしいです）（Ma-CM1-6）
22 見物をしました。私は田畑を手伝った。おいしい食べ物を食べました。（→手伝いました。）（Kh-DR-3）
23 あとで、海で泳ぎました。ほんとによかったです。（→ほんとうに）（Ike-DR-16）

次に，D－Gの表における特徴としては，

ア．S－Gの場合と同様に，名詞と動詞の誤選択（それぞれ10と19）が多い。

イ．S－Gにはない誤用として，係助詞に関する誤用が多い。（全部で27）格助詞の誤用（15）も含めると助詞の誤用はかなりの割合になる。

ウ．同様に，D－Gに特徴的な誤用として，丁寧文か非丁寧かという文のレベルに関する誤用が目立っている。（19）

エ．助動詞の誤用，特にテンスに関わった誤用が目立っている。（12）

6．結びにかえて

先に誤用分析の目的として三つの目的を挙げたが，今回の基礎研究では，残念ながら，特定の文法規則の解明や，誤用の原因の解明につながるようなデータを提示するまでにはいたっていない。これは我々の今後の課題にしたい。しかし，今回の誤用分析によって明らかになった重要な点がいくつかある。既に述べたことでもあるが，それは，まず何よりも，文文法と談話文法との理論的関連性が誤用例の統計的データによって裏付けされたということである。もう一つは，誤用例のデータにいくつかの傾向が見られるということである。つまり，文文法と談話文法，両方の分野に共通した誤用の傾向があるということと，それに加えて，それぞれの分野に特有の傾向が見られるということである。例えば，名詞，動詞の誤選択，格助詞の誤用は両方の分野に多い傾向であり，一方，係助詞，文のレベル，および助動詞のテンスに関わった誤用は談話文法の分野特有の誤用の傾向であると言える。この事実に，我々は重要な教育的意義を見出せそうである。その意義は何かと言うと，先述した誤用分析の第3の目的，つまり，教育的方策の提示ということと関連して，日本語教育における教育方法なり教材の開発においては，文文法・談話文法，両方の観点からこれと取り組む必要があるだろうということである。初級のレベルから，文文法だけでなく，談話文法も導入していくという明確な視点を持つべきであり，それなりの談話指導，談話ドリルの工夫をすべきであると言える。そして，そのような教育方法や教材の開発をすすめる上で，文文法・談話文法，それぞれの分野の誤用例が重要なヒントを与えてくれるように思える。例えば，誤用例に基づいてさまざまな練習問題の作成が可能となる。次に示すものは，その一例である。

誤用分析を利用した問題例

文文法に関連した問題

（1） チンさんは友達の家【で／に／を】住んでいます。
（2） 私は五時【ごろ／ぐらい／まで】家へ帰ります。
（3） 二時間【を／は／で】高野町【は／で／に】着きました。
（4） 私はその問題がやっと【わかりました／しりました／しっています】。
（6） 日本には北海道と本州と四国と九州の四つの島【があります／です／になります】。
（7） 日本の料理はあまり【からい／からく／からくて】ありません。

談話文法に関連した問題

（1） 私は広島大学の留学生です。広島大学で日本語を勉強しています。私は先月国をはなれて家族といっしょに広島へ【来ました／行きました／帰りました】。
おとといは東京へ行きました。しんかんせんで四時間ぐらいで【着いた／着きました／着いています】。
私の家族【が／は／に】みんな元気です。
きのう公園に行きました。【そこ／あそこ／ここ】には学生が集まっていました。
公園へ行ったあとでラーメンを食べました。【食べた／食べる／食べている】ところは駅前のレストランでした。
少しさんぽをして家に帰りました。家に帰るとつくえの上に手紙がおいて【あります／ありました／いました】。その手紙【は／が／を】インドネシアの母から来たものでした。【それで／しかし／けれども】その夜私はインドネシアに手紙を書きました。

これは，今回我々が実際に取り扱った誤用例をもとに作ってみた練習問題のサンプルである。一見変哲もない問題例であるが，学習者の側に立ち，学習者の典型的な誤用例に基づいて作った練習問題という点で重要な意味を含んでいると言える。つまり，このような問題例を収集し，整理していけば，学習者の日本語能力の発達過程・到達度をチェックするテストの開発にもつながっていくだろうと考えられるからである。

注

1) 正用／誤用の判断の難しさについては，例えば，野元菊雄「日本語学習者の誤りの分析」『日本語の特性と機械翻訳』出版科学総合研究所，1987参照。

2) 例えば，J.C. Richards (ed.), *Error Analysis*. Longman, 1974., J.C. Richards (ed.), *Understanding Second and Foreign Language Learning*. Newbury House, 1978. に収められている諸々の論文，および S.P. Corder, *Error Analysis and*

Interlanguage. Oxford University Press, 1981. を参照。

3) L. Selinker (1972) の命名による。

4) 例えば, A. Davies, C. Criper, and A.P.R. Howatt (eds), *Interlanguage*. Edinburgh University Press, 1984 は, これまでの研究成果の一つのまとめと言える。

5) 水野晴光「日本語の中間言語分析」『日本語教育』62号, 1987は英語の中間言語分析研究のまとめであって日本語のものではない。

6) Corderの誤用認知過程では, 解釈不可能な文を母語へ翻訳してみる過程が含まれているが, 今回我々が対象とした留学生の母語は多岐にわたり, 我々の力量を超えることなので, この過程は省略した。

7) 母語話者でも犯す偶発的な誤りをmistake, 第二言語習得過程での体系的な誤りをerrorとして区別する。

参考文献

小篠敏明『英語の誤答分析』大修館　1983

佐藤正子「アメリカ人の日本語誤用例の問題点」『講座日本語教育』第19分冊　1983

難波康治「日本語教育における誤用分析の研究」『教育学研究紀要』第31巻　1985

野元菊雄「日本語学習者の誤りの分析」『日本語の特性と機械翻訳』出版科学総合研究所　1987

水谷　修「外国人の日本語談話行動における誤用の研究」『日本語の特性と機械翻訳』出版科学総合研究所　1987

水野晴光「日本語の中間言語分析」『日本語教育』62号　1987

宮崎茂子「誤用例をヒントに教授法を考える」『日本語教育』34号　1978

森田良行『誤用文の分析と研究』明治書院　1985

吉川武時「誤用例による研究の意義と方法」『日本語教育』34号　1978

Corder, S.P., "The Significance of Learner's Errors," *IRAL* 5, 1967. Reprinted in Richards (1974).

_____, "Idiosyncratic Dialects and Error Analysis," *IRAL* 9, 1971. Reprinted in Richards (1974).

_____, *Error Analysis and Interlanguage*, Oxford University Press, 1981.

Davies, A. et al. (eds), *Interlanguage*, Edinburgh University Press, 1984.

Richards, J. C. (ed.), *Error Analysis*, Longman, 1974.

_____, *Understanding Second and Foreign Language Learning*, Newbury House, 1978.

Selinker, L., "Interlanguage," *IRAL* 10, 1972. Reprinted in Richars (1974).